足立区教育委員会指導力向上中核校

渕江小学校　外国語活動・外国語研究通信

第９号
令和４年１月

今年度第 4 回目となる外国語活動・外国語の研究授業を 本間 優佳 教諭が行いました。新型コロナウィルス感染症対策のため体育館で行いました。協議会では、デモンストレーションの仕方やグループ活動について活発な意見交流を行いました。指導・講評では、文部科学省初等中等教育局視学官 直山 木綿子 先生よりご指導いただき、研究を深めました。

研究主題

関わり合い、学びを広げ、深める児童の育成
～思いを豊かに表現できる授業づくりを通して～

授業者：２年２組 担任 本間 優佳 教諭
単元名：果物を英語で言ってみよう
指導講評：文部科学省初等中等教育局視学官 直山 木綿子 先生より

〈低学年分科会において考えた外国語学習の目標〉
・英語の歌や絵本を通して、英語のリズムや音声に慣れ親しむ。
・外国語の表現を積極的に使い、言ったり聞いたりする活動に楽しく取り組む。
・外国語を使って、友達と意見や考えを伝え合うことの楽しさを知り、興味をもって関わろうとする態度を培う。

〈研究の視点について〉
視点①英語のリズムに慣れる工夫
英語には日本語とは異なる独特のリズムがあるため、英語の歌や絵本の読み聞かせ等の活動を多く取り入れ、それらに慣れさせるようにした。また、表現を繰り返し聞いたり言ったりする活動を多く設定し、体を動かしながらリズムに慣れさせるとともに、単語の意味と動作がつながるよう指導した。
視点②語彙を増やす工夫
生活の中で、カタカナ英語で発音されているものも多くあるが、実際に英語で色々な果物を言うことができる児童は少ない。そこで、歌や本を用いて様々な果物の英語の語彙や表現を繰り返し聞かせ、単語や表現に慣れ親しませる。同時に、ゲームの中で慣れ親しんだ果物の言い方を多用し、自然に英語で単語を言うことができるように工夫した。
視点③関わり合いの場をつくる工夫
外国語活動・外国語では、児童が日本語にはない、英語独特のリズムや音などの音声の楽しさを実感できるよう指導をしたい。そのために、単元のエンドプロダクトとして「クラスで人気な果物を調べる」というアクティビティを設定し、児童同士が関わりながら楽しんで英語でやり取りする環境を整えた。

〈教員の指導力向上〉
クラスルームイングリッシュを意識して取り入れ、児童がたくさん英語に触れることができるようにした。また、児童への指示も簡単な英語表現で伝えたりジェスチャーを使いながら伝えたりする工夫を行うとともに、TA や英語を得意とする教員にアドバイスをもらい自身の指導向上に努めた。

〈研究経過報告〉
・本校は一昨年度から低学年でも外国語活動に取り組み始め、今年度は 11 月末から外国語活動の授業をスタートした。この2年間の研究を通して低学年では「外国語でコミュニケーションを図ることは楽しい・面白い」という素地を育てて、3年生に引き継ぐことを重点においてやってきた。
・今回の授業では好きな果物を聞いてグループをつくる活動を通して発話を多くすることで「できた」という気持ちをもたせるようにした。

〈授業者自評〉
・児童が楽しそうに活動していたのでとても安心した。歌もいつもより大きな声で歌えていたと思う。
・めあての「グループを作ろう」の流れをしっかり意識させた方が良かったと感じた。
・グループができず、一人だった児童に対して対応や声掛けに課題があった。

〈研究協議会〉
良かった点・・・○　改善点・・・●
○導入で歌とダンスを取り入れていたので、児童は「楽しい」という気持ちから活動に入っていけていた。
○担任の英語力の高さが児童の発音の良さに繋がっていると感じた。
○活動内容が明確だったので児童も取り組みやすかった。
○2 年生の英語力の高さに驚いた。日ごろから意識して外国語活動に取り組んでいるんだなと感じた。
○担任が楽しそうにやっている姿を見て、児童も楽しく取り組めていた。
○数字を言わせる流れがスムーズだった。

デモンストレーション
●活動に入るまでのデモンストレーションが長かった。
●教員だけのやりとりだけでなく、児童と一緒にデモンストレーションを行ったほうが良い。
●児童は言いたい気持ちが高まっているのに、教員だけでデモンストレーションをしていた。
⇒児童に理解させたいという気持ちが強く出てしまった。児童の様子を見ながら進めていけるように改善していく。

グループ活動
●めあてが「グループを作ろう」なのに、一人になってしまう児童が出てしまうのはいかがなものか。
●一人にならない配慮があったほうが良い。
⇒「友達に好きな果物を伝える」「友達の好きな果物を聞く」という目標を達成させるために「グループを作ろう」をめあてに活動を行った。一人にならないようなめあての設定だったり、一人になっても不安になったりしないような配慮が必要だった。

〈指導・講評：文部科学省初等中等教育局視学官　直山　木綿子　先生〉

チーム渕江小学校
・児童が一人にならないように教員同士で連携している姿は素晴らしかった。
・機械トラブルがあった時も、すぐに駆けつけてくれていた。チーム渕江小学校として支え合って、チームとして教育活動をしていることがわかる。

めあての設定
・めあてを「グループを作ろう」にする必要性はなかった。なぜなら、仲間を作るグループ作りだと聞き合う必要性がなくなってしまう。
・めあてを「いろいろな果物を見つけよう」と設定すると、聞き合う活動が活発になるし、一人になる児童もいなくなる。
・めあては児童の特性やクラスの特徴をしっかり理解して設定することが重要である。

児童に気付かせる・考えさせる
・児童の様子を見ながら授業を進めることが大切である。今日は授業を進めることに精一杯だったが、すぐに改善できる。
・聞く姿勢ができていない児童に目が向くのは仕方ないが、その児童一人一人に声掛けをすると時間がかかってしまう。聞く姿勢ができている児童に注目させ、今はどうしないといけないのか気付かせることが大切である。
・発表する時はその場で発表させるのではなく、どうしたら「みんなが見やすいか」「みんなが聞きやすいか」を児童自身で考えさせることも重要である。

めあてを出すタイミング
・めあてを出してデモンストレーションを行うと児童の「考えてみる」機会を失くしてしまう。デモンストレーションを見せ、今日やること、課題を考えさせることで思考が深まる。
・まずは表現方法を理解させるのはなく、デモンストレーションの内容や意味を理解させることが優先。児童は内容や意味が理解できると表現方法を知ろうと思考を働かせる。

質問：低学年は「外国語活動は楽しい」という目標でよいのか。評価等はどうすればよいのか。
・低学年だけが「外国語活動は楽しい」ではいけない。全児童が「外国語活動は楽しい」と思わないといけない。
・教育活動としてあるなら評価はあるべき。なぜなら低学年分科会で考えている「外国語でコミュニケーションを図ることは楽しい・面白いという素地を育てて、3 年生に引き継ぐこと」という位置付けがある。また、3 年生の担任への申し送りをしないといけない。
・「楽しい」は教員の主観。児童が目標を達成しているかどうか、事実を残していくことが必要である。

質問：本間先生は Activity の最後に集まったグループの人数を数えていたが、もし直山先生だったらどういったことをさせていたか。
・めあてを「いろいろな果物を見つけよう」に設定し、Activity の最後に、
① どういった果物を聞いてきたか確認し、絵カードを黒板に貼る。
② あまり聞きなじみのない果物を取り上げ、その児童にみんなで“What fruit do you like?”と聞き、答えさせる。めずらしい果物を選んだ児童が自信をもって発表できるようにする。
・その児童が答えられなくても良い。「後でこっそり教えてね」と伝え、余韻を残して Activity を終え、振り返りに移る。